

韓国で労働者 6 万人が大集会



11月10日、光化門交差点で開かれた労働者大会。ムンジェイン政権に対する「期待」を振り切って打ち抜かれた。

ゼネストで社会大改革と訴え

「私たちの力で社会大改革を」

11月10日に韓国・ソウルで労働者大会が開催され、学生自治会からも参加しました！この日は6万人の労働者が参加する大きな行動となりました。

2017年に「ろうそく革命」と呼ばれる民衆の行動でパククネ前政権は倒され、ムンジェイン政権が誕生。「積弊清算」を掲げ、財閥と政治の癒着を解決するとしていました。しかし、ムン政権は公約していた労働者の権利擁護をまったく果たしませんでした。

こうした中で、韓国の労働者たちは「世の中を動かす力、社会発展と改革の動力であるわれわれ労働者が政府と国会に対する期待を振り切って、私たちの力で社会大改革の扉を開こう」と訴え、21日からゼネストに入ることを宣言しました。

「政治家のせい」にしない

厳しい政治情勢になるとありがちな、手放しに野党に期待したり、政治家の腐敗を嘆いたりする姿勢とは全く違う「民衆」の姿がそこにはありました。共に働く仲間を信頼し、私たち自身に力があると言い切る労働組合の力強さです。

政治が腐敗し、「残業代ゼロ法」など、労働者をはじめとした多くの人々の権利が奪われるような政治が進められ

ている状況は日本でも同じです。しかし、それと立ち向かう力が、政治家ではなく自分たち自身にあると言い切れる強さが韓国の労働者たちにはありました。私たち日本の学生も、彼らのように誇り高く団結して、理不尽に負けない人生をおくっていかうじゃないですか！

厳しい中でこれだけの力

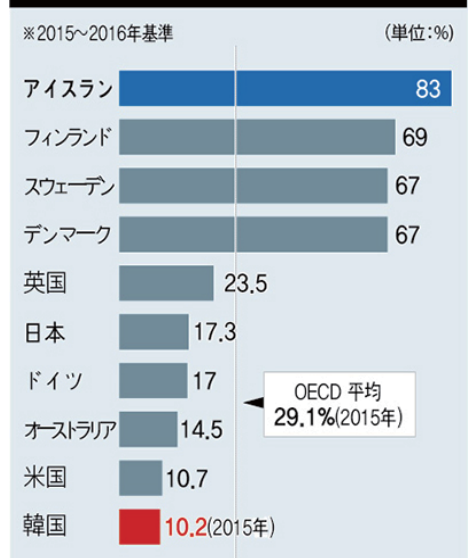
韓国の労働者の置かれている状況は、決して日本より楽だということではありません。むしろ非正規率は日本より高く、労働組合の組織率も日本より低いような状況です。

(右図参照→)

しかし、韓国の労働組合は、労働者が本気で立ち上がれば社会は変えられると信じてブラック企業に立ち向かい、10万人もの新たな仲間を迎えていると言います。

日本でも理不尽に負けない学生・労働者の運動をつくっていきましょう！

経済協力開発機構(OECD)加盟国の労働組織率



広島大学学生自治会

委員長 森田寛隆

hiro dai86@yahoo.co.jp

http://hiro dai86.blog.shinobi.jp/



「改憲許さない」が原点

日本でも11月4日、東京・日比谷野外音楽堂で開かれた全国労働者総決起集会に4800人が集まりました。

『改憲・戦争だけは絶対許してはならない』が労働運動の原点」だとして、「臨時国会での国民投票法改悪、改憲発議を許さないために力を結集すること」、「来年春までに本当に力を持った無数の運動体を全国各地に立ち上げ、闘う労働運動を取り戻すこと」を目指した集会です。

常日頃から仲間の解雇や労働環境の悪化と立ち向かっている労働組合が次々と発言に立ちました。国鉄分割民営化という偽装倒産によって、不当に解雇された仲間の復職を求めて30年以上にわたって闘い続けている動労千葉をはじめ、パワハラと長時間労働の会社と闘い続け、20数人の仲間がともに立ち上がったタクシー職場の労働組合の話など、諦めずに会社の理不尽と闘って仲間を増やしている、感動的なアピールが無数にありました。この労働組合の力が改憲を阻止する力でもあります。

こうした不屈の労働組合の闘いが多くの人をひきつけ、過労死で家族を亡くされた方々も発言（右に発言要旨）。また、アメリカやブラジル、中国など全世界で闘う労働組合からのメッセージ・発言も寄せられました。

労働者は国境を越えて団結することができる存在です。改憲・戦争を阻止して社会を変えよう！

過労死で娘を亡くされた 「東京過労死を考える家族の会」の方の発言

過 労死は働かせすぎで起こる人災です。労災は認定されましたが、法律違反はしていないと会社は言いました。社内の誰も責任をとることもなく、誰一人処分されていません。組合も過労死を追及することも社員に周知することもなく、一体誰のための、何のための組合なのでしょう。

今 年6月、「働き方改革」法案が強行採決されました。娘を過労死で亡くした母親として、強い憤りがあります。多様で柔軟な働き方という口当たりの良い言葉にだまされてはいけません。一生懸命に働いた挙句、過労死で未来を失うようなことが繰り返される社会にはいけません！

過労死 (karōshi)

(n.) death from being overworked

日本でも4800人が

